



高校生の感想 ~福祉を学んで、いろんなことを感じてくれました~

社会の色々な人と関わって
助け合って生きるのが
福祉だと知ることが出来た。

福祉とは、ただ人に寄り添うだけ
ではなく、相手のことを思い「無理だ
からしない」ではなく、「どうすれば
できるか」を考えることだと思った。

ボランティアは
思いやりがたっぷり
いてとてもいい活動
なんだと思った。

自分から自発的にボランティアを
する気持ちを大事にしたいなと
思いました。

困っている人だけでなく、
私たちも日頃から
友達の相談などをうけて
助けてあげたいです。



障害のある方に対して
差別の目がなくなれば
いいと思いました。

知って、障害に触れて
みないと、どんなことが
必要かどんなことが
不安かわからないと思った。

「講座」のイメージはとても
かたい感じだったけど、とても
楽しくてたくさんのことを
学びました。

高校教員・保護者から感想をいただきました

高校教員から ・ 講座の準備がしっかり出来ていて、目標→内容がはっきりして参加している高校生が楽しく安心して講座に積極的に参加出来ていて、本当に良かったです。
・ 支援する、されるという関係も必要で、大切なことですが、「遊び」の中で、共に楽しむという視点は両者のもつ心の壁を少しずつ崩していけそうな気が致します。両者がメンバーとして入ることのできる競技であれば、「自分事」として捉えることができるのではないのかと私は思いました。「ポッチャ」を通した本日の授業は、心に残る、受講者に深く、考えさせる、良いものであったと思います。

保護者から ・ 学校とは違う仲間と知り合い、考えを持ち人に伝えたり、人の意見を聞いたりできたこともいい経験になったと思います。
・ 娘は高校生で進路については今から考えていく過程にあります。大学生の方に触れることで具体的な自分の将来をイメージ出来ているようです。楽しく表情豊かな学生さんを見てステキだなと思ったようです。

高校の先生や保護者の方から感想をいただき、
励みになりました。
ありがとうございます。

おわりに

今回も高校生をはじめとする多くの方々に参加していただいたことに感謝いたします。高校生と一緒に「福祉」を学ぶことを通して、私たちは初心に帰ったり、新たな気づきがあったり、多くの学びを得ることができました。また、多くの人に「福祉を伝えること」を実現していきたいと思えました。この講座を開催するにあたりご協力いただいたすべての皆様に感謝いたします。

「はーと♥ふくし講座」スタッフ一同



編集
後記

今年もたくさん的高校生たちとの出会いから多くの刺激をいただきました。さて、来年度は、教職課程の後輩が講座を担当します。これからも、高校生の皆さんが山口県立大学社会福祉学部の学生と「はーと♥ふくし講座」を学ぶことが出来ることに期待しています。

社会福祉学部教職課程4年 鈴木 美華、中野 初音、吉田 希

発行 山口県立大学社会福祉学部 〒753-8502 山口県山口市桜畠3-2-1 平成31年3月



平成30年度 大学生による高校生のための はーと♥ふくし講座

報告パンフレット

~いっしょに「福祉」を学ぼう~



はじめに

大学生による高校生のための「はーと♥ふくし講座」は、平成26年度入学生の教職課程4年生が中心になって開始しました。「高校生に福祉を伝えたい」という思いから企画した講座ですが、「伝える」というよりも「一緒に福祉を学ぶ」という体験ができました。今年度の報告パンフレットでは、高校生と大学生が共に学び合う様子をお伝えしたいと思います。

私たち(企画者)の思い

教職課程生が3年次に受講する「福祉科教育法」の授業において、福祉教育の意義や必要性について理解を深め、さらに一人ひとりが福祉の授業実践として模擬授業を実施しました。その経験を通じて、地域の高校生に「ふくし」の心を伝えたい、福祉の輪を広げる実践をしてみたいという思いを持つようになりました。そこで教職課程教員の指導をもとに、地域の高校生への福祉教育実践の企画を行いました。その中で、福祉教育を「共に生きる教育」として捉え、講座では社会福祉学部で学ぶ学生と、福祉を学んでみたいと考える高校生が、共に学び合う、アクティブ・ラーニングを導入した学習プログラムを立案しました。

今回、3回の講座を通して、私たちは「福祉を伝えること」に加え、「福祉をいっしょに学ぶこと」の大切さを再考しました。大学生と高校生と一緒に学ぶことができる「はーと♥ふくし講座」が継承され、福祉の心(はーと)の輪が広がることを願っています。





第1回 は一と♥ふくし講座 社会福祉学部4年 中野 初音

2018年4月26日(金) 18:30~20:00

「すべての子どもたちが笑顔になれる社会～〈ふくし〉の理念と役割を知ろう～」

- 目的**
- ・ふくしの理念と役割について理解し、どのような人にふくしが役立っているか考える。
 - ・児童発達支援センターが障がいのある子どもに対し、どのような支援を行っているのかを知り、人と人が支え合って生きていく社会の仕組みについて考える(共生社会)。

- 様子**
- ・県内の高校生32(男子6 女子26)名、学生スタッフ21名参加しました。
 - ・「ふくしとは何か」を学ぶ前に、生徒のこれまでの生活や学習体験を通してイメージした「福祉の対象となる人々」を表現してもらい、グループで共有することにより、生徒自ら表現した「ふくし」を肯定し、そのイメージを持って学習がスタートできるようにしました。また、障害のある子どもが利用する児童福祉サービス、(児童発達支援センター)の支援の実態を紙芝居で紹介し、登場する3人の子どもたちがどのような支援によって「笑顔」になったかを考えました。今年度1回目の開催で、高校生も大学生も緊張している様子が見られましたが、自己紹介をしたり、意見を共有したりするうちに打ち解け、温かい雰囲気の中でふくしについて理解を深めることができました。



第3回 は一と♥ふくし講座 社会福祉学部4年 鈴木 美華

2018年6月22日(金) 18:30~20:00

「ボランティアが必要とされる社会～体験を通して〈ふくし〉を考えよう～」

- 目的**
- ・ボランティア活動は社会に必要なものだと理解し、誰でもできる身近なものだと知る。
 - ・ボランティア体験についての話を聞くことを通して、共生社会の実現におけるボランティアの必要性や役割を考える。
 - ・ふくしやボランティアについての関心を高め、今後どのような活動や学習をしていきたいかを考える。

- 様子**
- ・県内の高校生20(男子2 女子18)名、学生スタッフ21名が参加しました。
 - ・パワーポイントを用いながら、大学生が行っているボランティア活動の様子を伝え、ボランティアの体験を通してどのように福祉を学んでいるか紹介しました。また、自発的な意思に基づき人や社会に貢献する行為全般を「ボランティア」として、生活に密着した様々な形のボランティアについて伝えることで、ボランティア経験の有無に関わらず、自分の生活に引き寄せてより身近なものとして捉えられるよう働きかけていきました。最後は、高校生も大学生も未来に向けてやりたいことや思いをハート型のカードに記入し、全員で共有しました。この講座を通して高校生は自分なりのボランティアのあり方を見出し、「自分にできることはなにか」を考え、前向きな姿勢で取り組んでいました。



第2回 は一と♥ふくし講座 社会福祉学部4年 吉田 希

2018年5月25日(金) 18:30~20:00

「障害を〈知ること〉は共に生きることの第一歩～障害者スポーツを通して考えよう～」

- 目的**
- ・パラリンピックなどを通して障害について理解したり、障害者スポーツを体験することで、考えを自分ごとにする。
 - ・障害を知ることが共に生きる社会をつくることにつながるということを理解する。
 - ・今後(未来に向けて)、障害者と共に生きるにはどのような活動や学習をしていきたいかを考える。

- 様子**
- ・県内高校生40(男子3 女子37)名、学生スタッフ21名が参加しました。
 - ・障害者スポーツを通して共生社会への理解を深めるために、まず視覚資料を用いながら障害者スポーツがどういったものなのか示し、障害者スポーツについてイメージを共有しました。そのあと実際にポッチャを体験し、その際、障害のある人がいたら自分はどうするか、アイマスクや耳栓を用いてグループごとに考えてもらいました。難しい問いでしたが、生徒は合理的配慮や共に生きるとは何かについて真剣に考え、学びを深めている様子でした。ポッチャの体験があったこともあり、高校生同士の交流が多く見られ、生徒が主体的に学ぶことが出来たように思います。



第4回 は一と♥ボランティア講座 社会福祉学部教職課程3年生

2018年9月28日(金)

「大学生による高校生のためのは一とボランティア講座」

- 目的**
- ・大学生の福祉ボランティア活動の実際を知り、ボランティア活動を通して「福祉」について学ぶ意味を理解する。
 - ・「未来につながるボランティア」について、持続可能な共生社会に「福祉ボランティア活動」が与える意味を考える。
 - ・今後(未来に向けて)、どのように活動や学習をしていきたいかを考える。

- 様子**
- ・県内の高校生25(男子5 女子20)名、学生スタッフ16名が参加しました。
 - ・パワーポイントを用いて、大学内の福祉系サークルの活動の写真を見せながらどのような活動があるのかを知ってもらいました。また、サークルごとにブースを分けて興味のある分野の活動の話をもっと詳しく聞き、質問をする中で学びを深めていました。

